

公表 業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス たいようのはな		公表日		8 年 3 月 26 日
環境・体制整備		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	日によって利用児童と職員が一つの部屋に揃うと狭さは感じるが部屋や屋外を活用しているため活動には支障がない。 学年や活動ごとに適切な場所を確保できている。活動や人数により部屋を分けるなど、常に考えて工夫して支援を行っている。	始まりの会など全員が一つの部屋に集まった時や雨天時に手狭な場面もあるが、状況に応じて社会資源も活用するなど今後も工夫して活動に取り組む。量などの消耗品の交換。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	活動内容に応じて職員を振り分けることが出来る。難しい時には、職員同士で声掛けをしながら行っている。 指導員1に対し児童3以下の体制をとっている全体が見えるように、その都度、職員配置を考えており、場面に依拠して他の指導員に援助を頼むなど行っている。	学校行事により下校時刻が変動した際の送迎時間中の見守り人員が十数分程ではあるが、手薄な場面もある。 指導員の負担にならないよう配置を考えており、児童の状況などで個別対応が必要な時には途中で職員を移動しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	活動により、使用する部屋を使い分けているなど、職員が個々に声掛けを行っている。 身の回りの事は、ルーティン化出来る仕組みになっており、整理整頓され視覚的に刺激の少ない空間にしている。全体が見渡しやすい環境。利用児童に合わせての視覚支援などができている。	全員で使う備品の整理整頓、収納が徹底されておらず、定着していない状態。特定の人しか把握できていない物もある。 死角になる場所を作らないように、入ってはいけな場所には表示して知らせるようにしたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	朝礼前、清掃時間を設けている。衛生箇所は、営業時間中にも必要に応じて、都度、清掃し清潔を保っている。 空間の確保については、利用児や人数に応じて適宜、対応している。 掃除する際、普段気付かないような場所も掃除するように心がけている。	長期休暇や支援後の清掃が手薄になってしまうこと。 清潔を保つための全員の意識向上 使った物は元に戻すよう、スタッフも子ども達も同じように声掛けを行う。 誰が使ったもののか、最後に触ったものかで片付けるのではなく、過ごす場所をきれいにすることが目的だと子ども達にも定着できるよう支援を行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	クールダウンが必要なときには別室の活用等の対応が出来ている。 クールダウンが必要な時に、1人になれる場所を本児に尋ねたりする。または、自分で作れるようパーテーションを準備するなどしている。3か所の棟を居場所確保に活用している。	子ども達が何かの理由で暴れてしまったり、1対1で話をしないといけない場合は違う部屋を使ったりしている。どうしても職員の人数関係で別室に行けないことがあるため、パーテーションを利用するが、声の遮断は難しさを感じる。職員一人ひとりの臨機応変力が必要。今後もクールダウンができるよう空間を整える。
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	3	朝礼や回覧、支援者会議で情報共有している。会議なので児童の様子を把握する。	非常勤への報告は回覧やデジタルツールで行うが、他業務の事などで埋もれてしまい、徹底したものになっていない。非常勤が会議などへ出席できない場面での職員全員の情報把握に難しさを感じる。 非常勤職員が会議に参加できない事も多いため、情報共有の徹底が必要。個々を把握できるようにする。

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	面談での内容や意向を共有している。 評価表以外に親子イベントやアンケートを実施している。モニタリングやハグなどで確認している。	評価に対し、改善点にチェックが入るが、指摘が少ないため、その部分の意向を記入して頂くよう質問方法に工夫をする。 避難訓練などすべき活動など実施しているが、実施日の利用の有無で広く周知できていない為、今後は全体にお知らせを行う。 送迎時など直接会う機会を活用し、直接話して関係性を構築していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	会議の時間などでのディスカッションや、個別での面談を設けている。 毎週1回の各種研修、週2回の全体会議、適宜ミーティングを行って支援や方向性の確認、意見交換を行っている。みんなが話しやすい雰囲気作りや発言しやすい環作りを心がけている。職員会議が毎週あり話し合う機会が多いので仕事の仕方に役に立っています。	会議で発言が少ない場面もあるため、付箋などを利用し全員が表出できる方法を工夫する。勤務日によって非常勤職員が参加できないため、会議以外の方法を用いているが完全とは言えない。 ミーティングでも話に参加できるよう頑張りスタッフ同士で意見交換する時間があるので、色んな事をノートなどに記入して不参加の職員にも伝えられるようにしておく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3	外部研修などの受け入れを積極的に行い、事業所の風通しはよい。 実地指導による指摘を業務改善につなげている。	第3者による正式な外部評価は受けていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	支援や野外活動に関する外部講師研修や事業所内研修をこまめに行っている 定期的な外部研修や週一回の職員研修を実施している 意欲的に研修に参加している 研修内容を支援に活かせるよう工夫をしている。 事業所でしかない研修もあるため、自己研鑽のために参加している	方針に対する職員間の理解度 非常勤職員がなかなか参加できない 勤務状況により参加できない日もある
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	職員への支援プログラムと計画に対する共有 自然体験を中心にプログラムを作成している。 支援や活動に関する事について情報収集している。 定期的に確認し、実施している支援とすり合わせしている	計画書に対して計画の全体把握や周知、支援プログラムへの反映に難しさを感じる。こまめな担当者会議を行う。 事業所や利用児童の成長にともない、更新の必要がある項目もある リーダーに頼りっぱなしなので指導者で早めに支援プログラムを作成準備をしていく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	職員や保護者への聞き取り 児童にも簡易的なアンケートを取ったり聞き取りを行い、本人のニーズも含めた上で定期面談や日頃の共有におけるご家族の意向を反映している。 特定の児童だけに関わらずその日の利用児童全員と1日1回は話をするようにしている 定期的に確認している 作成されている。 子どもたちのアンケートや普段からコミュニケーションをとって把握している	利用児童の詳細な把握で家庭と事業所でのギャップがあることや、野外体験活動から脳育に繋がっている事を上手く伝えることができていない事もある。 関わる職員が本人の目標やニーズを細やかに知る機会を設けていきたい まだまだ個々の見極めが足りない。もっと把握していきたい。子ども達や保護者さんの困り感を把握し対応したい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	職員間での情報共有の場を設けている 定期的な支援者会議や適宜、支援の振り返りを行っている モニタリングに参加している 毎週職員全員で案を考えています 毎日、支援後に小さなことでも児童のことを共有している	全体に伝えるが非常勤も含めて全体が把握出来ているのかわからない事もある。 一部非常勤職員への周知が完全ではない。 児発官の計画書を確認し個々を把握する外出時などすぐに報告できないことがあるため、ポケットWi-Fiを検討してほしい。

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	支援者会議にて共有を行っている 定期的に目を通している 当日の集団活動はボードに目的内容を書き込み全員が確認できるようになっている その都度児童の状況は変わったりするため、会議等で情報を共有している	原案の段階での会議が非常勤不在などで不十分な場面もある。非常勤に対しても、積極的にその時間を設けて伝えていく。 非常勤職員含め、全ての職員が方向性や支援方法の統一、意識の向上が必要と感じる。 計画に沿った支援をしているが、どんな計画だったか困った時は児発管や管理者に聞いたり、スタッフで共有したりしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	アセスメントシートの項目が細かく分かれており、詳細を知ることができ、モニタリングの際にアップデートされる 事業所独自のアセスメントシートを用いて、モニタリングにも活用している。支援者の振り返りを定期的に、または適宜行っている。 運動面で専門的評価をしている 子ども達の様子や行動など気づいた時は職員同士で共有している。 送迎時などからコミュニケーションをとり児童の様子を観察している。適宜、共有している。	職員指標となる視点、療育への目線などの共有の理解の難しさを感じる。 非常勤職員との共有と意識の向上が課題
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	モニタリング時に配布するアンケートで、利用児童、ご家族の困り感をより細かく知り反映させる。 保育所棟訪問支援や相談支援事業所と協力し、課題の分析によって支援方法を工夫している。 モニタリングや保育所等訪問などを通して、集団生活での様子や課題を把握している 非常勤勤務の為、参加の機会がないため、正しく認識できていない事もある。	保護者によりアンケートの記入に差が出る。 記入がない場合もあり、漏れが生じてしまう。 協力体制の温度差 具体的な支援内容を把握できていなかった
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	起案書の活用や会議での意見交換 全員起案を行い、活動の目的の中での個々の支援への繋がりを考え実施できるようにしている 積極的にコミュニケーションを図り、話し合っている チームで行っています 児童人数や参加できるようグループをわけするなど、工夫した配置を考え、連携している	立案の時間の確保が難しい日もあり、起案詳細が当日になってしまうことがある。 児童の自発的な活動を支援に繋げる思考力が必要 曜日によっては、リーダー任せになっている時間帯もある為、サブとして助け合っていたい。チームで話す時間をもっと増やす。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	週案の作成を行い、月での目的・目標に応じた活動内容を作成している。 大きく4つのグループに分け、活動の目的の習熟度などで内容に変化を持たせている。 子どもたちが今興味があることや今後のための活動を順を追って取り組んでいる。 毎月、目標を変更している。 内容が同じにならないように変化を常に考えてプログラムしている。 一つの活動でも変化をつけ、競争してみたりと子ども達が飽きないように工夫している。 児童が自発的に楽しく参加できるように評価反省を繰り返し、工夫している。	週案作成の継続の難しさや、全体把握と意識の統一。全職員が真の目的や個別の課題を理解した活動の進め方が出来ているか。 子どもたちが、ワクワクするような活動を取り入れ積極的に参加できるよう努めていきたい 活動の雰囲気や集中力をみて活動を検討

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	アンケートや、計画書に関して職員との共通理解を図れるよう工夫している。 完全に個別の活動は難しいが、集団活動の中で個別課題を盛り込み対応している。 変わった様子があれば、適宜、学校や家族に話を聞き、背景を深堀りしている 集団が難しい場面では、職員を1対1で配置し対応している 人数やその時の児童の様子などをみて、集中できるような環境を作っている	共有に限られてしまい全支援者の周知に至らずにいる 個別までいかず少人数までにとどまっている人数やメンバーに応じて別れて活動をするなど今も取り組んでいるが引き続き行っていくその子に出来ることを考えてすこしでも参加出来るよう環境などを工夫している
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	支援活動の計画を分散して偏りがないように行う。起案を元に担当毎に確認している。 会議を開いている。朝礼で確認している。 スタッフ同士で共有をし、行うようにしている。午後からの職員もいるため、児童が来所する前に活動しないよう共有できるようにしている。	チームで行うが全体へ指示を出す職員が固定化されてしまう。長期休暇など全体での共有、把握が手薄になる。非常勤との連携不足は否めない。直前の立案が課題。 中々詳しく打ち合わせができていなかったの で、その時間は取り入れていきたい。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	緊急度の高い内容から報告している。 送迎後に伝達事項などを伝える 適宜共有を行って 意欲的に発言している 都度、反省点や課題を話している 支援後スタッフ同士で、反省点や、良かった点を話し合っている。 毎日、支援後に本日の児童状況を報告している	毎日同じメンバーの職員ではないので、その日気づいた点など報告が必要なのは、対面以外の方法で共有し、現場にいなかった職員の受け取り側の意思表示が必要。 その日、その場にいる職員は知ることができるが、全体への共有が遅れてしまう現状。 非常勤職員との共有がスムーズではない。 日々記録に追われてしまっていた。5分でも話せる時間を設けていきたい。 全体が共有できる環境だが、自分自身の覚書としてメモを取るようになっている。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	ケース記録、職員会議の有効活用 毎日の活動に目的や到達点を設け、記録を行っている。 ケース記録に記載している 必ず連絡帳を書いている。 現場で忘れないようにメモし、記録している。 毎日ケースに記録できるように時間確保の工夫をしている	入力の職員によってケース内容に差がある。 基本的に非常勤職員は記録しないため、個別の支援や事業所全体の方針など理解が薄い。 支援の記録を残していけるようにしたい。 支援中のメモの方法に悩んでいる
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	事前アンケートの活用 年2回のモニタリング面談とそれに伴う支援者会議を行っている。 児童の日々の様子を話す機会をもっている。 モニタリングの際、学校や家庭での様子と事業所での様子をしっかりと共有している。	計画見直しの際、職員の聞き取りの時間の確保など常勤しか行えていないため、非常勤の参加を計画的に確保する。 非常勤職員の理解に個人差がある。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	2	ルールの中で愉しく過ごしてもらうことを心がけてる さまざまな自然体験活動を積極的に取り入れられている。 秋祭などを通し地域や他業種、多事業所と交流が持っている。 させられているという支援ではなく、児童の主体性を尊重しながら、遊びという活動の中に支援要素を組み込んでいる しっかりと支援に取り入れている。	野外活動に関して、保護者間で理解や参加意欲の差や、家庭と事業所との温度差が感じられる場面がある。 職員によって個人差がある 引き続き取り入れ活動計画を立てていきたい

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	自己選択の機会をもうけている。 積極的な選択活動。一斉活動もあれば、選択活動としての集団活動もある。自由活動でも自発性を大切にしている。選択活動を取り入れている。 スタッフの意見をいくつか提案はするがそのあと子ども達で色々話し合い決める活動もある。児童が自己決定できるような環境をつくるよう工夫している。	選択の幅をもっと広げていく。 活動の意図を理解できていない支援者との意識統一が課題。選択活動を増やして自己決定力を高めていきたい。他児がほかの児童を誘う場合があるため、様子観察が必要。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	相談支援員とのモニタリングでは現場職員も積極的に関わることができている 児発管だけでなく、日々の支援を行っている指導員も同行している。	モニタリングの際など、支援の意図や目的を理解できている非常勤職員が少ない 時間調整が必要。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	積極的な保育所等訪問の導入を行っている。 送迎時など積極的に学校などの関係機関と情報共有を行っている。就労事業所と繋がりを活かし、活動に反映させている。 何かあれば状況報告できるよう心がけている	保育、教育現場、ご家族、支援者の共有情報を適宜おこなう。 高学年になると学校での先生との引き渡しはなくなるため、学校との共有が難しい状況になっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	こまめな連絡調整を行う。トラブル対応など迅速丁寧に行う事を心掛けている ご家庭と連携している 書類を整理してわかりやすく管理している 必要に応じて学校等に確認している すぐに連絡がとれるようにしている。	下校時間の変更の情報共有がご家族から届いていない場合がある。そのため、急な下校時間の変更などがご家庭からの連携不足でお迎えのトラブルになることがある。 稀に下校時刻など二重チェックができておらず、間違っているときがある
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0	アセスメントシートやアンケート、聞き取りなどをこまめに行う。新規利用時に、関係機関との情報共有を率先して行っている。 必要に応じて連携している。	互いの連絡調整が難しい場合があり、情報を得るまでに時間を要することがある 現状維持でよい 担当者会議は報告書や出席者からの伝達でしかわからないため、実際どのようなやりとりがあるのか興味があります。 モニタリングや児童情報を確認する
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0	対象者がいない	学校を卒業し移行した児童がまだいない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	0	連携は出来ているが、機会が少ない 外部講師に依頼する研修もある 研修に参加している よくわかりません スーパーバイズと言う言葉を初めてきました。	スーパーバイザーに接する機会が少ない 現状維持でよい 知らない事も沢山あるのでいろんな事を勉強し自分のものにしたいです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	参加できる職員が固定化されてしまう 放課後児童クラブなどとの交流は運営が違うため先方の受け入れが難しい様子。 地域の子ども達と関わる活動に参加したことがないですが興味があります。 秋祭りや他事業所の催し者への参加。 特定の団体ではなく地域のイベントに出演することで地域との交流を図っている。他事業所との交流を行っている。	公園で過ごす際、他事業所の児童と交流できるよう積極的に行動したり促しを行う
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	0	代表が参加している 会議や協議会開催のイベントに参加している 参加した事がないです。	会議内容の周知 現場と会議内容の共有が必要

保護者への説明	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	連絡帳や送迎時での対応、配慮など 日常的には連絡ツールや送迎時に共有している。 必要に応じて電話などで連絡している。 会議や書類に目を通している 保護者との個別連絡をいつでも出来る状態にしている 質問や意見の返事もきちんと行っている 送迎職員に伝え、連絡帳などにも記入する	メールのやり取りでの難しさ 留守家庭や保護者会などの事業所での行事に参加が難しいご家庭との連携が難しい 今後お迎えが多くなるため、直接伝える
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	情報提供や、保護者参加型のイベントも多い 定期的な保護者会や親子イベント・保護者研修を行っている 外部講師による講演や親子デイキャンプなどを行っている 親子活動を取り入れているので共有出来る時間がある 親子で参加できる活動時の様子を観察する 事業所での関りや学校での取り組みの様子を共有している	学年によってイベント参加など温度差がある 個別でのペアトレには課題がある
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	保護者様に分かりやすいよう配慮を行う 契約時と適宜、行っている 前もって活動詳細を連絡している。連絡帳にて当日の活動における目標を伝えている	利用期間が進むにつれ、宿題に関して伝えるものの理解が進まない状況が出てくる 連絡ツールでの公開を行っているが、すべてのご家庭へ広く周知できていない様子も感じる
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	アセスメントや、評価表日々の連絡帳などの活用 アンケートや定期的な面談を基に日頃からもコミュニケーションを取っている 普段からのコミュニケーションの会話も大事に聞くよう心がけている	連絡が付きにくい保護者様への対応に時差が出てくる ご家庭によっては不足感を感じている
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	計画書と同時に内容を分かりやすく説明 モニタリング面談でも計画を基に事業所での支援状況を振り返っている 普段の様子を送迎やモニタリングで伝えている	分かりやすく伝えられているか不安な部分がある 日頃の支援と計画の繋がりやの理解が不十分と感じる
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	3	すぐに答えが出ない場合は、個人だけの意見にならないように個人情報を大切にしながら、同僚や上司の意見を聞き、再度お伝えする 都度行っている。必要に応じて関係機関と連携している。 助言をするまでできないので勉強していかなければいけないです。 他の職員と情報を共有し様々な対応方法を検討する	適切かどうか不安になる時がある。 全く相談がないご家庭もあるため、このように対応していることが周知できていない
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	月に一度保護者向けの交流イベントがある。 定期的にたき火カフェと称して懇談会や親子イベントを行い、保護者同士の交流機会を提供している 親子デイキャンプや焚き火カフェなどの取り組みをしている 親子活動を取り入れている 母子の会とかではないけど土曜日のイベントで合流会があるので凄いいと思います。 焚き火カフェや親子イベントなどでの交流できるような声をかける	イベント内容や参加保護者が同じな場合が多い。 参加者が固定化しつつある

等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	すぐに対応し、その場で解決できない事は上長に対応を仰ぐ 職員と対応策まで共有している その日のうちに共有している メールや電話でしっかり対応してあります 苦情が出た場合は次も同じ事を起こさないようにしている。 他の職員と情報を共有し、対応策を考えている	保護者様によっては、同じ内容の話が繰り返される場合がある 非常勤との共有が難しい
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	4	インスタのストーリーに当日の活動内容、写真を投稿している こまめに行っている SNSで発信している Instagramにて メールやお手紙でしっかり伝えていきます 児童が楽しんでいる姿が伝わるように活動も楽しめるようなことを考える	毎日できてない日もあるのでなるべく毎日あげたい 発信できているが、どのくらい周知されているのか知る機会が少ない 周知できていない様子もある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	職員間での取り扱いに関して情報共有 適切に管理している シュレッダーにかけている 大丈夫と思います 個人情報のもの持ち帰ったりはしない。 個人情報を持ち出さない	職員全体への把握の難しさ 全職員が理解できているのか シュレッダーにかけている
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	障がい理解について研修や情報共有をおこなっている デジタルが苦手なご家庭には個別対応などを行っている	全体への周知と、対応できる職員が限られてしまうこと 相談支援事業所との連携を試みるが思うように連携に繋がらない場合もある
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	1	秋祭りで行っている 積極的な取り組みが見られる 外部講師による活動やイベントに参加したり、事業所主催のイベントを地域貢献活動として実施している	地域の方への周知のやり方など。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	こまめに行なわれている 研修や訓練を行っている 送迎車にマニュアルが常備されています 研修などの時に緊急時の対応を検討する	参加できる職員が限られてしまう 保護者に実施について連絡帳などで報告はしているが、すべてのご家庭へ周知できていない 出勤の調整が出来ない為、非常勤は限られた職員しか参加できていない。一部だが非常勤も意欲的に参加してほしい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	消防署から出張で訓練をうけている 定期的に行っている	参加職員や子どもが曜日によって参加できない。 非常勤職員が参加が難しいため理解度が不明。 参加できない非常勤には回覧しているが、読み込んで理解できているかわからない。 意識が向いているのかも不明。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	契約時に聞き取りを行い、対応など細かく共有している。該当者は少ないが、職員と共有し、個別ファイル背表紙に視覚的に表示している。予防接種の確認は行っていない。	全職員での把握の難しさ 予防接種は特に必要ないと感じる 個人情報なので周知や視覚的表示の方法に工夫が必要
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	体調の変化などこまめに行う 対象者がいない	食物アレルギーの利用児がいないが、エビペンなどの研修を取り入れる 対象者がいない アレルギーを持っている子どもとか関わるのは保育園以外ではないので事業所でも研修を詳しく行いたいです。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	こまめに研修など行っている 法令遵守と必要物品の準備活用 生活のなかで危険性があればその都度情報を共有し話し合って検討する	安全管理の部分と職員の周知 非常勤職員が把握できているか不明

51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	訓練など行う。 連絡ツールにて公開している	取り組みを伝えるが理解されているかは不確か。 確認できていないご家庭がある
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	事例検討会を行う 記録し、朝礼や会議などで共有している 会議を開いている 常にヒヤリハットを感じたら記録している ひやとした時は他のスタッフとも声掛けをしながら次に同じ事をおこなさないように話しながら対応をしている。 日頃から児童同士での関わりを観察する	共有に関しての全体的な把握 非常勤職員への周知 記録を都度、行う 記録が後回しになってしまう。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修を多く取り入れる。 研修や事例検討を行っている 児童対応時、蹴ったり叩いたりされることがあるため、児童に触る際は状況を伝えて触るようにしている	研修の際事例検討会を行う グレーな支援をなくすための知識と支援力が必要
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	研修会で全体での話し合い 個別でお伝えしている 拘束が必要な児童はいないが、飛び出しなどを防止する際に行動を阻止する場面はある。	全体への共有と把握 グレーな支援を解消するための支援力や意識の統一